

札幌お手玉同好会の研修会は 194 回目 会から寄付したお手玉は、なんと 3 万個を超える。

新しく西村会長を迎え

札幌お手玉同好会は、昨年7月、第1回札幌お手玉遊び大会を、ホテル札幌フロンテで開催しました。この大会は、佐野栄一前会長が長年あためてこられたものでした。病床にあった佐野前会長に、大会の成功をお伝えした1週間後に他界され、冥途の土産にさせていただくことになりました。

大会の運営にあたっては、現会長の西村寛幸様(札幌白石交通安全協会専務理事)の全面的なご協力をいただきました。また、日本のお手玉の会のご支援もあつて、大会を成功させることができました。心から感謝しています。

西村様との出会いは、幸運の一言では言い尽くせない、ほんとうにありがたい人生の出会いでした。あれから1年以上も経っています。つい最近まで、時々すすり泣いている自分にただただ呆れるばかりでしたが、ようやくここに至り、諦めの境地になつたところからです。

西村様が、ご多忙のなか会長をお引き受けくださいましたことは、この上ない幸せでございます。

小豆入りお手玉づくり

10月10日には、札幌お手玉同好会として第194回目のお手玉研修会を、白石駅前会館で行い、13人が参加して楽しく過ごしました。これも、みなさんの優しさに支えられてのことで、深く感謝しています。

また、お手玉作りも再開しています。個人の出来上がり数は25,491個になりました。同好会としては30,000個は寄付したと思います。

材料の大豆は、西村会長が友人から80kgを超える量を調達してくださいました。会としても、お手玉用の小豆は、毎年、問屋さんから40kgから60kg買って、虫食い防止のために熱湯をかけ、天日干しをして使用しています。わが家の玄関は、豆と出来上がったお手玉の箱で満員です。

これからも、前を向いて努力してまいりますので、ご支援のほどよろしくお願いたします。

札幌お手玉同好会代表 今井幸子



● たくさんのお子たちにお手玉遊び指導



● 札幌お手玉同好会のみんなで作るお手玉



■ 札幌お手玉同好会がつくったお手玉のストラップです。

札幌お手玉同好会では、これまでに寄贈したお手玉が3万個です。その数に驚きました。また、王冠入りの音がするお手玉や、携帯ストラップ用のミニお手玉など、新しいお手玉を、いろいろ工夫しています。